

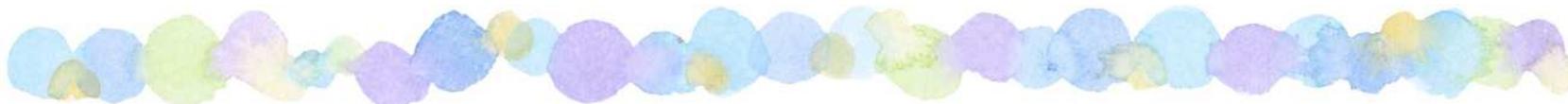


就学前施設と小学校の教育をつなぐ～京都市立幼稚園の取り組みを中心に～

幼児の発達と 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

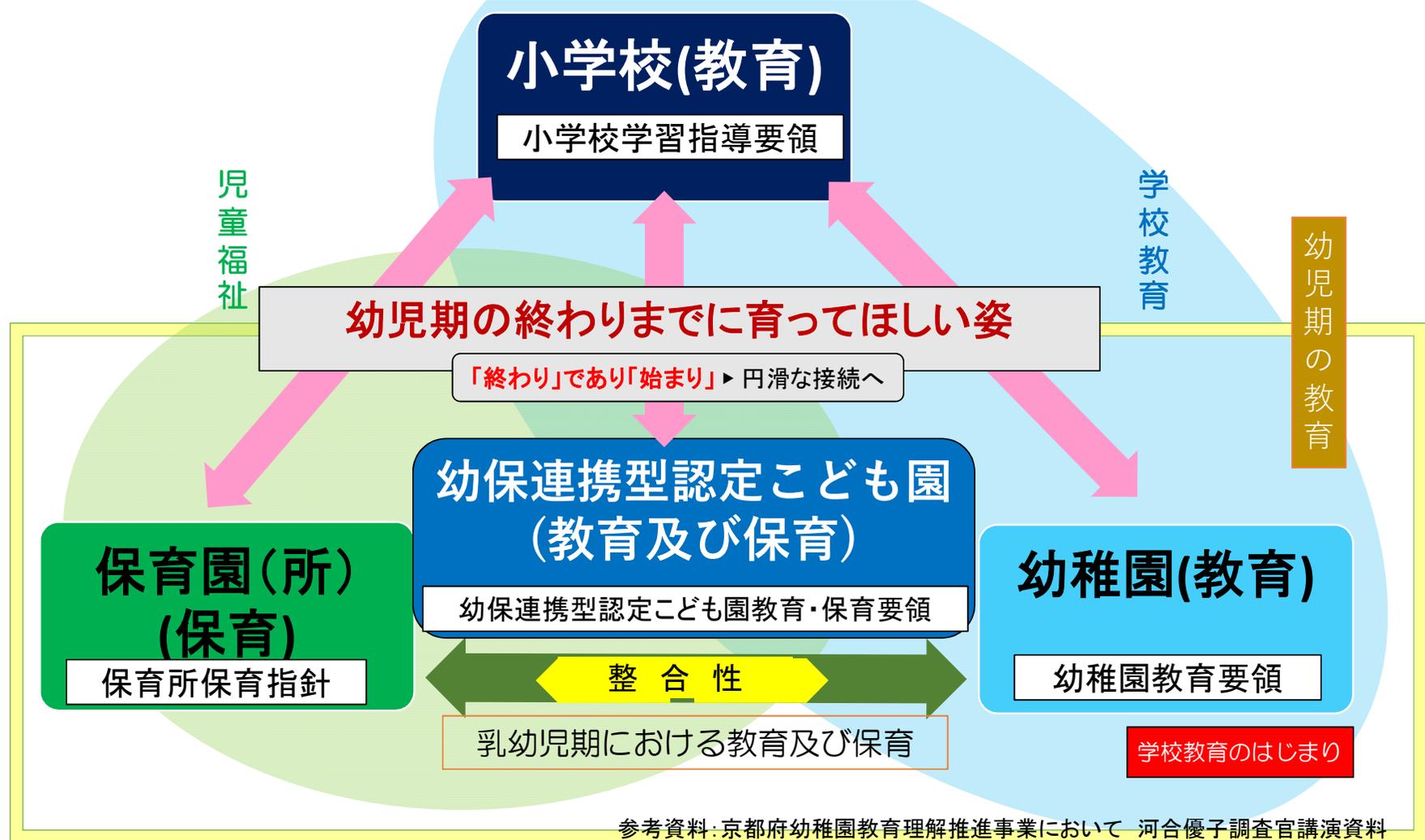


京都市教育委員会 指導部 学校指導課
首席指導主事 高橋由記子



就学前施設(幼稚園, 幼保連携型認定こども園, 保育園(所))と小学校の接続

幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園における教育と保育の整合性, 小学校教育との円滑な接続に向けて (イメージ図)



参考資料: 京都府幼稚園教育理解推進事業において 河合優子調査官講演資料

幼児期の発達の捉え方

自然な心身の成長に伴い、人が能動性を発揮して環境と関わり合う中で、生活に必要な能力や態度などを獲得していく過程が発達



幼児期には幼児自身が自発的・能動的に環境と関わりながら、生活の中で状況と関連付けて身に付けていくことが重要である。したがって、生活に必要な能力や態度の獲得には、遊びを中心とした生活の中で、幼児自身が自らの生活と関連付けながら、好奇心を抱くこと、あるいは必要感をもつことが重要。

幼児期の発達の特性

- ・ 周囲から自分の存在を認められ、受け入れられているという安心感などを基盤に自立へと向かう。
- ・ 生活経験からの自分なりのイメージをもって友達と遊ぶ中で、物事に対する他児との受け止めの違いに気付く。
- ・ 環境との能動的に関わることを通して、周りの物事に対処し、人々と交渉する際の基本的な事柄についての概念を形成する。
- ・ 他者との関わりあいの中で、葛藤体験やつまずきなどを体験することを 通して、やってよいこと悪いことの基本的な区別やきまりの必要性に気付き、自己主張、自己抑制ができるようになる。

「参考文献:幼稚園教育要領解説, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説抜粋」

参考:【発達過程】

子どもは、それまでの体験を基にして、環境に働きかけ、様々な環境との相互作用により発達していく。保育所保育指針においては、子どもの発達を、環境との相互作用を通して資質・能力が育まれていく過程として捉えている。「参考文献:保育所保育指針解説抜粋」

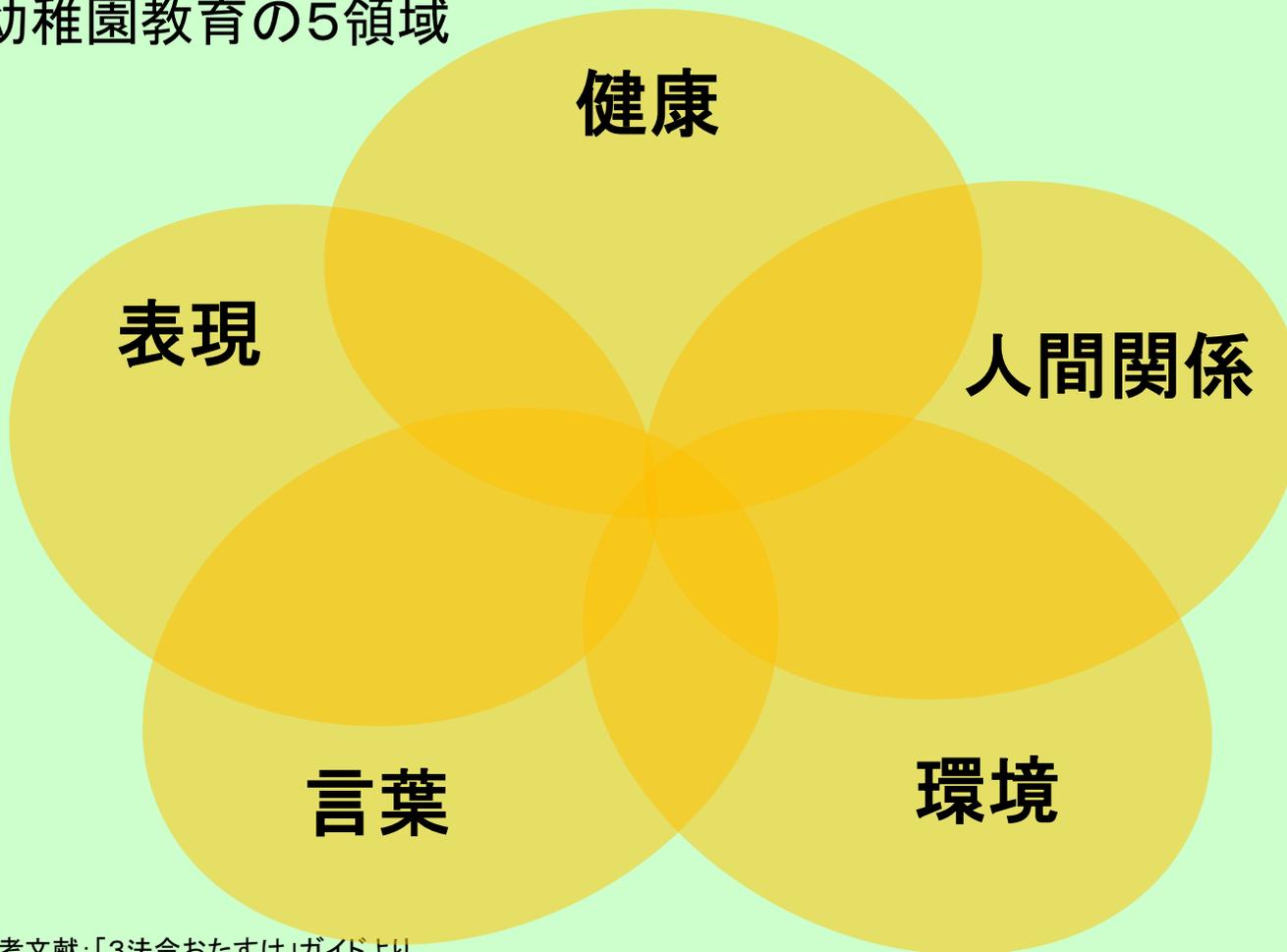
幼稚園教育の特徴

- ・ 環境を通して行う教育

- ・ 遊びを通しての総合的な指導

幼稚園教育の5領域

各領域に「ねらい」「内容」があり、「ねらい」は幼稚園生活の全体を通して幼児が様々な体験を積み重ねる中で相互に関連をもちながら次第に達成に向かうもの、「内容」は幼児が環境に関わって展開する具体的な活動を通して総合的に指導されるもの。



参考文献:「3法令おたすけ」ガイドより

幼稚園で育む資質・能力

幼稚園から高校の学校教育を通して育む力

学校教育全体



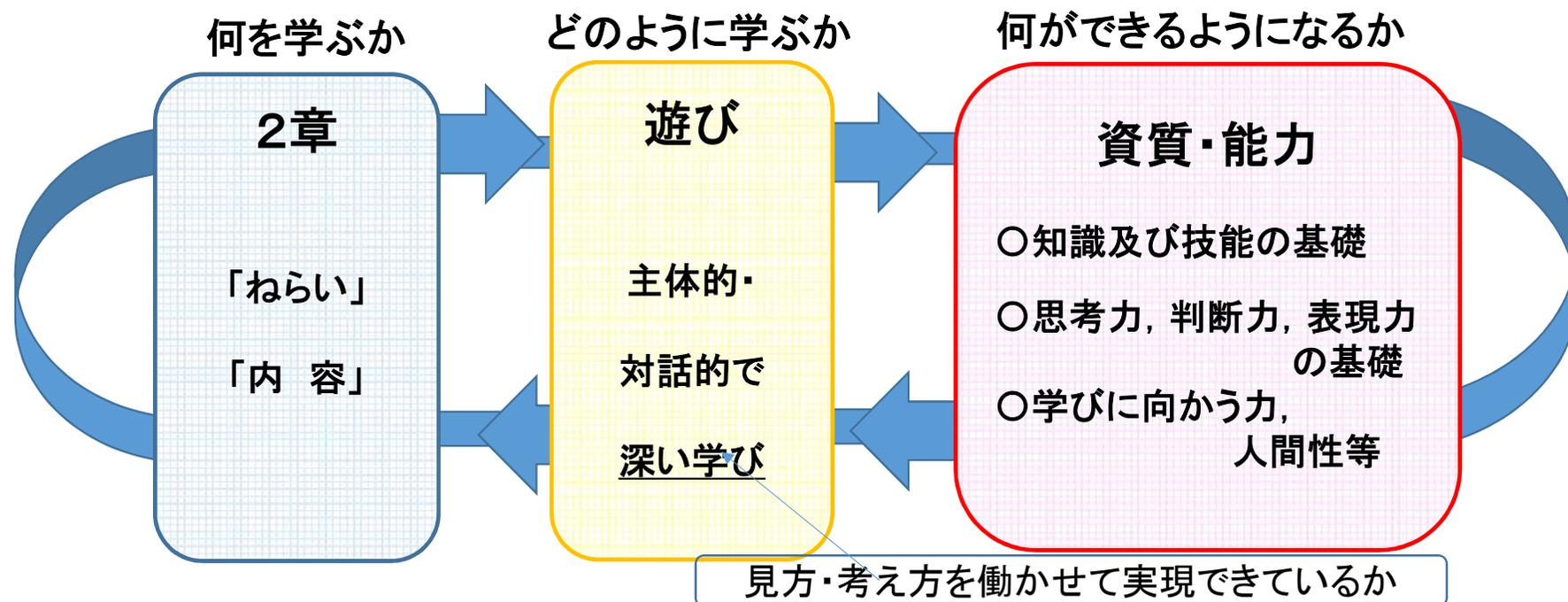
※三つの力をバランスよく育みます。

幼稚園ではその基礎を育成

- ・**知識及び技能の基礎**
豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする。
- ・**思考力、判断力、表現力などの基礎**
気付いたことや、できるようになったことなどを
使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現
したりする。
- ・**学びに向かう力、人間性など**
心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活
を営もうとする。

※遊びを通して三つの力を一体的に育みます。

領域と資質・能力, 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の関係



各領域のねらい及び内容に基づく活動全体を通して, 資質・能力が育まれている幼稚園終了時の具体的な姿(環境を通して行う教育を通して, 3歳児, 4歳児とそれぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねてきた具体的な姿)

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

参考文献: 無藤隆著「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

(1) 健康な心と体

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

(2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

(3) 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

(4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

(5) 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

(7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にす気持ちをもって関わるようになる。

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

(9) 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

幼稚園の遊びから「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を探してみましよう。

夢中になって積み上げることで、高さや量を感じたり、自分で考え工夫し、目的のために協力することを学び、一つのことを成し遂げる達成感を味わいます。
算数の学習や協同活動につながる体験です！



自分のやりたいことに向かって、体と心を働かせ、積み木を高く積む見通しをもって行動する

【健康な心と体】

「この椅子に乗ったら届くかも」どうしたら、安定して高く積めるか考える

【思考力の芽生え】

自ら積み木に関わり、工夫しながら、あきらめずにやり遂げる

【自立心】

同じ形の積み木をたくさん積み上げていく

【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】

積み木を高く積みたい！共通の目的に向かって、協力する

【協同性】

「積み木、もっとくよ。そいつと気をつけてね」

【言葉による伝え合い】



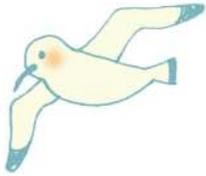
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに 就学前施設と小学校との接続はどうするのか？

幼稚園と小学校の教育を「つなぐ」ために

～生活科「学校探検」の学習に取り組む姿から

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を捉える～

京都市立伏見南浜幼稚園 廣内 厚土教頭の実践発表から



K児は友達と3人で一緒に行く約束をしていたようだ。円陣を組み「エイエイオー」と声を上げた。

～(略)～

給食室はドアが閉まっており、ドア越しに中を覗いたが誰もいない様子だった。K児「いいひん」と、目をボードに移す。T児「なあなあこっち先行こ」と方向を指さす。K児「そやな」と階段下の広場まで戻る。

～(略)～

健康な
心と体

自立心

協同性

幼稚園と小学校の教育を「つなぐ」ために

～生活科「学校探検」の学習に取り組む姿から

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を捉える～

京都市立伏見南浜幼稚園 廣内 厚土教頭の実践発表から



時計を見ると「あと少ししかない・・・」とK児。
そして、「給食室行こう」と仲間に声をかける。

～(略)～

K児たちは給食室にもう一度行ったが、結局誰もおらず会うことができなかった。そこで時間が来た。教室に戻ると、友達のボードと比べながら「あー2人しか行けへんかった」と少し残念そうに言った。そして「なあこの先生行かへん?」とT児に話していた。

道徳性・
規範意識
の芽生え

協同性

健康な
心と体

自立心

幼稚園と小学校の教育を「つなぐ」ために
～生活科「学校探検」の学習に取り組む姿から
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を捉える～

京都市立伏見南浜幼稚園 廣内 厚士教頭の実践発表から



小学校
教師
S先生

幼稚園の先生と一緒に生活科の学習計画を立てられたら、よりよい授業ができますね！

教師同士が話し合える関係こそ大切ですよね。
それが子どものよりよい育ちにつながると
思います！



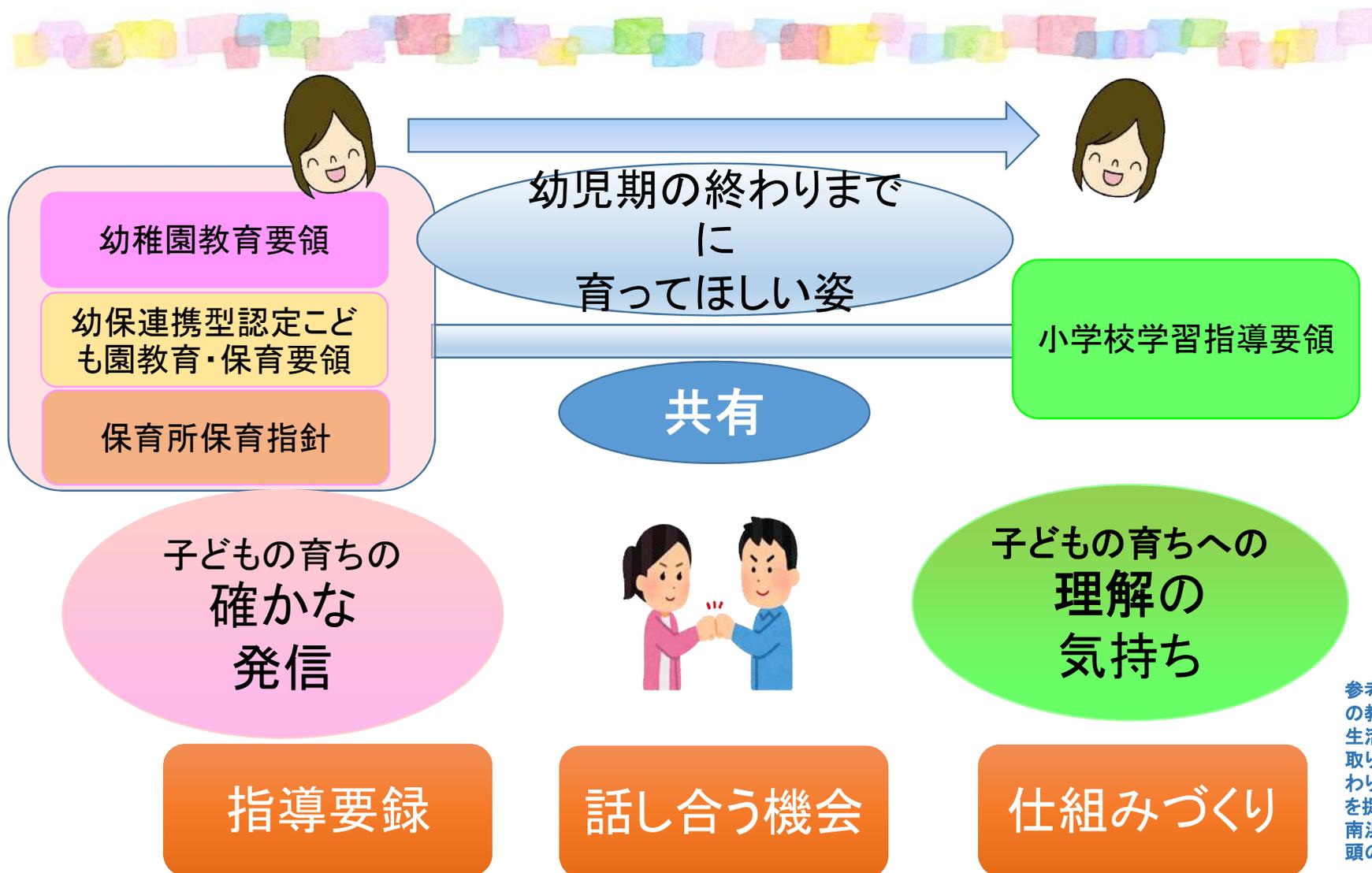
小学校
教師
O先生

幼児期の終
わりまでに
育って
ほしい姿

共に接続期の在り方を協議
する
機会を得ること

育ちをつなぐ

就学前施設と小学校の教育を「つなぐ」ために



参考資料:幼稚園と小学校の教育を「つなぐ」ために～生活科「学校探検」の学習に取り組む姿から「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を捉える～～京都市立伏見南浜幼稚園 廣内 厚士教頭の実践発表から～

京都市子どもはぐくみ要録

「書きやすさ・送りやすさ・読みやすさ」を大切に、

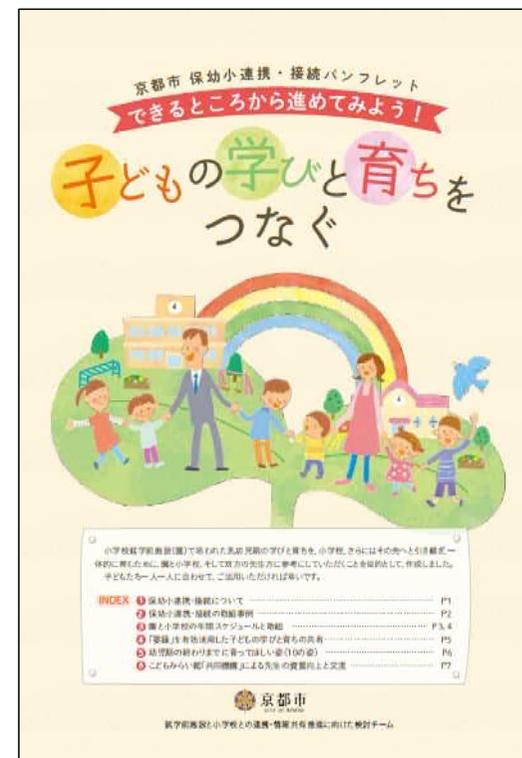
就学前施設と小学校の「双方」が「思い」を伝えられるよう、

記載項目とサイズ(A4)を統一！

(各施設の状況に合わせて導入・活用されていきます)

「要録」の有効活用による

子どもの学びと育ちの姿の共有



要録の詳細は、「子どもの学びと育ちをつなぐ」参照

最後に

幼児期に子どもたちは、遊びと生活から様々なことを学ぶ。

幼児期にふさわしい生活(教師との信頼関係による安心感・興味関心に基づいた直接体験, 主体的な遊び・友達との十分な関わり)の中で、主体的に遊び、生活することが重要。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が手掛かり

接続期を大切にしながら、小学校・就学前施設それぞれの教育・保育を理解し合い、子どもたちのためにつながりましょう。





ご清聴ありがとうございました。

